



献血に対する疑問にお答えします。



血液って どのくらいの 寿命ですか？

A

血液は、血球成分(約45%)と血漿成分(約55%)から成り立っています。血球成分は骨の中にある幹細胞と呼ばれる細胞から作られます。幹細胞が骨髄内で分裂・成熟し、働きの異なる赤血球、白血球、血小板の3種類の血球に分かれます。

血漿成分は水分(約91%)と固形成分(約9%)からなり、固形成分にはアルブミン、グロブリン、血液凝固因子のタンパク質など、非常に多くの種類があり、その寿命は種類によって異なります。

血球成分	寿命	寿命について
赤血球	約120日間	寿命がくると肝臓や脾臓で壊されます。
白血球	約2週間 ※白血球の約60%を占める顆粒球の場合	中には寿命の途中で病原体を攻撃して病原体とともに死んでしまう白血球も少なくありません。
血小板	約10日間	血球成分の中では一番寿命が短い。

年齢と血液細胞の寿命は関係ありません。
寿命の尽きた血液細胞は壊され、
新しい細胞に置き換わっていきます。

